

連載 38

# 内海善雄の 「やぶ睨み」論 「ネット社会」論

今年も第一生命から、恒例のサラリーマン川柳ベスト10を選ぶための傑作100選が発表された。世相を反映する楽しいものばかりだが、ICT（情報通信技術）に関連するものが十六首も含まれている。この十六首を読んでみると、ネット社会の一面をまことにうまく表現しているのだと感心させられる。

「いいね」は米国産Facebookの「Like」を訳したのだが、これほどの適訳はないだろう。今日の日本社会の風潮にぴったりである。フェースブックの「いいね」を皮肉っているものが三首ある。

## 日本社会に適訳「いいね」

◆オヤジギャグ いいね！を押すのは 中高年の俺の愚痴 いいね！ボタンを 妻が押し「いいね」は米国産Facebookの「Like」を訳したのだが、これほどの適訳はないだろう。今日の日本社会の風潮にぴったりである。

# ネット社会 川柳で詠めばこともなし

## 魔法使いの杖か、タッチパネル

次に多かったのが、スマホやタブレットの指操作に関するものである。iPhoneが市場に出てからたった数年であるが、爆発的に普及した。指でなればサツと画面が変わる感覚が、まるで魔法使いの杖のように願望を叶えてくれる感覚に通じるからだろう。

◆携帯と 亭主の操作は 指一本  
ところが、この魔法も通じないのが古女房である。

◆わが女房 タッチすれども 作動せず  
そして、タブレットの魅力にはまり込み、人間関係を失いがちな悲しい状況を皮肉るギャグが誰にでも思い浮かぶ。

◆妻よりも しゃべってなてる タブレット  
一度、スマホやタブレットを使い始めるとその指タッチの感覚や音声検索の便利さを凌ぐものはなかなか世の中にない。努力もせずにはサラリーマンが願望を実現できる世界は、ネットの仮想空間や、何でも言うことを聞いて

筆者だけではない。

しかし、早速、この文明の利器を勝手に活用している姿も詠まれている。

◆電話では いえぬ無理強い FAXし  
当時、生活様式を変えていったファックスやコードレス電話も、現代ではまったく当たり前のものである。そう考えれば、今日、生活の隅々まで影響を与え、人間の考え方もも変えていくのではないかと考えられているPCやスマホ、タブレットなどのICT機器も、二十年先の世から見れば、案外そんなに大それたことではなく、ごく当たり前の道具にすぎないのかもしれない。

◆リモコンを 向けても変わらぬわが女房  
それが証拠に、二十二年前の次の句は、先に紹介した本年の傑作の一つ、「わが女房タッチすれども 作動せず」とまったく瓜二つである。道具は変わっても、人の本性は変わらぬようである。

る。原文の「いいね」は、自分の評価を能動的に意思表示する言葉であり、主体の意思が明快な、欧米的なものである。

ところが、日本語に訳された「いいね」は斜に構えて感想を表しているだけであり、意思がない。他人事を横から無責任に見ている態度であり、単なる感情を表しているにすぎない。いかにも現代日本に蔓延している風潮にぴったりの発信である。それで、誰もが気軽に「いいね」を発信する。もし訳が「好きだ」であれば、簡単にはクリックできないだろう。しかし、「いいね」と連発する日本人の傾向は必ずしも日本人特有のものではないのではないか。戦前の軍国主義の世の中で「いいね」とつぶやけば、時と場合では、「ふざけるな、まじめにやれ」とビンタを喰らうこともあっただろう。

◆「辞めてやる！」会社に、いいね！と 返される  
この他人事のような「いいね」も、本来の主体的な「like」の意味で使われると大変なことになる。その感覚のずれを詠んだのが次の名句だ。

◆LED 覚えた直後に L T E

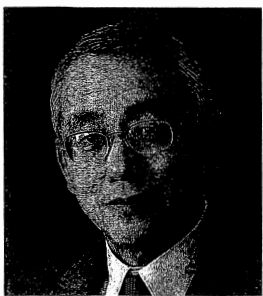
◆家のこと 嫁のブログを 見てわかり  
◆父からの 友達申請 ひく娘  
そして、便利さのゆえに本来の大人の会話を喪失した姿を描く二首が、端的に現代社会の現状を語っている。が、残念ながらあまりに当たり前のことになっていて新鮮味がない。

## 実は22年前も同じだった？

さて、このように ICT 機器が現代社会を変えていることは明らかだが、昔はどうだったのだろうか。主催者がネット上で発表している一番古いデータは、二十二年前、第四回目のサラリーマン川柳である。ここでも、選ばれた百首のうち、ICTに関連したものが十首もあるのには驚かされる。しかし、ここに出てくる ICT 機器は、コードレス電話三首、ファックス二首、電話二首、ワープロ一、リモコン一首である。これらの機器が當時は川柳になるほどの新技術だったのかと思うと、隔世の感をぬぐえない。

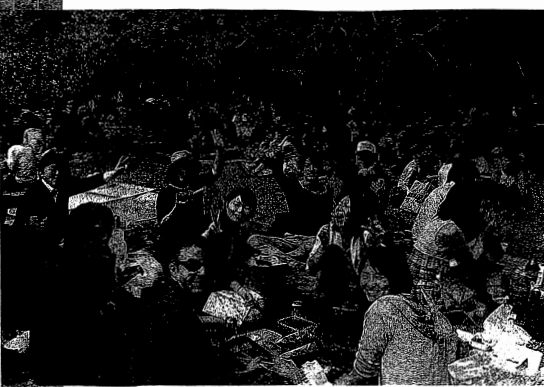
◆ファックスし 明日には着くかと 聞く上司  
◆コードレス おじぎしている 道端で  
◆コードレス 買ってはみたが ワンルーム

なんとも文明開化の時代を見ているような光景で、やたらに懐かしくなるのは



内海善雄(うつみ よしお)  
1942年香川県高松市生まれ。東大法学部卒。東芝を経て66年郵政省(現総務省)入省。電気通信の自由化など、通信放送政策を長く担当。98年国際電気通信連合(ITU)事務総局長就任。現在は財団法人「海外通信・放送コンサルティング協力」理事長。早稲田大学客員教授。

てくれるICT機器だけだということである。  
◆悩み事 話すはスマホの コンシエルジュ  
さらに、このような世界が現実の世に実現すればどんなによいかと切望するのは、人間の健全な反応だろう。  
◆人生に カーナビあれば 楽なのに  
ICTとは言いがたいが、新技術であるLEDのようにってほしいと願うものもある。  
◆すぐキレる 妻よ見習え LED  
一方、次々と新技術が出現しても、使いこなせなくて当惑する御仁も多いだろう。



いつの世も変わらない世相なのか